

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600197		
法人名	社会福祉法人勝縁福祉会		
事業所名	社会福祉法人勝縁福祉会ひごろもそう		
所在地	山口県防府市大字浜方8番地の1		
自己評価作成日	令和6年5月20日	評価結果市町受理日	令和6年8月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和6年7月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間を通して季節を感じられる施設全体行事、月1回のユニット行事を行い、利用者様に楽しんで頂けるように工夫を行い、取り組んでいる。夏祭りなどではキッチンカーを招き、地域住民の方にも来て頂き、清掃活動の参加など地域の人とのつながりも大切にしている。コロナ禍という事もあり、以前のような外出支援が難しい所もある。また当施設は、特定技能生が多いため、日本語の勉強会を開くなど特定技能生が働きやすい職場になるように努めている。院内研修の実施、外部研修への参加、委員会での意見や提供を積極的に採用し、反映させるなど若手職員の人材育成にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域との絆を重視し、訪問し易い事業所作りに取り組んでいる。事業所は自治会に加入し河川清掃に協力したり、利用者は季節の外出行事、家族と法事等で外出している。又家族の面会・地域住民の運営推進会議参加・音楽療法士のボランティア来訪等、双方向の交流がある。運営推進会議には市担当課職員・同業事業所管理者・栄養士等の参加もあり、率直な意見交換により課題を共有し、知見者の加入等、意見を活かした取り組みに繋がっている。また人材育成、特に職員の半数を占める特定技能生等と働きやすい環境が共有できる様、教育委員会では日本語勉強会の実施や内部研修では自国との文化の違いや介護事情等について発表参加したり、夜間想定緊急時対応で管理者とシミュレーションして特訓した結果、実際に夜間の訪問看護師との連携も図れた経緯がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのままで変更しないでください】

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの事業所理念をつくり、いつでも確認できる場所に掲示して共有して実践に繋げている。	開設時に作った法人理念を事業所理念とし、それを具体化した四つの基本方針をケア実践上の道標として掲示して周知に努めている。以前は月間目標を立てていたが、現在は毎月のユニット会議で利用者の状態・行動変容を振り返る中で理念の達成度を検証し、管理者は気づきを促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し地域の清掃活動には毎年参加している。行事ごとの食材の買い出しは地域のスーパーを利用している。	事業所は自治会に加入し、河川清掃に協力したり、利用者は季節の外出行事、家族と法事等で外出している。又家族の面会・地域住民の運営推進会議参加・音楽療法士のボランティアや夏祭りでのキッチンカーの来訪等、双方向の交流や夏祭りで地域の子どもの参加等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は認知症の人の理解や支援の方法を地域人々に向け活かしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価について改善点を話し合い、取り組んでいる。自己評価表は誰でも閲覧できるように管理者がまとめている。	多国籍の特定技能生が職員の半数を占めていることもあり、管理者と介護支援専門員が中心となって自己評価を作成している。その自己評価を開示・閲覧可能な体制として職員が熟読できるように努め、毎月のユニット会議でも話し合いの場をもち、特定技能生にも理解できる様努めている。	外部評価結果に基づいた目標を事業所として達成すべく具体的な改善策に全職員で取り組んでいる。ただ、自己評価の意義や項目の理解について特定技能生等に課題もある。働きやすい環境が共有できる様、必要最小限の評価実践力の育成に向けた具体的・段階的な取り組みを期待したい。
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年12月より運営推進会議を再開している。グループホームでの活動内容を報告し、市職員、地域の方、ご家族、他事業所との意見交換、アドバイスをもらったりし、サービス向上に活かしている。	会議は隔月に併設施設との合同開催で家族代表・自治会長・民生委員・市高齢福祉課職員・同業事業所管理者等との対面会議となっている。事故報告等を行っており、参加者から会議には知見者の参加が必要という意見により、今年の開催から同業事業所管理者の参加に至った経緯がある。	会議には家族代表・自治会長・民生委員・市高齢福祉課職員等の参加もあるが、家族の参加機会が減ってきている。家族との事業所運営に関する情報共有が不十分であり、今後は参加できない家族との情報共有・意見交換の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情を伝え連携を取るようにしている。議事録の提出、介護保険更新など市との連絡を密に取るようにしている。	運営推進会議には市高齢福祉課職員が参加して情報共有し、開催報告書は担当課にメール送信している。担当者とは日頃から相談・報告を行い顔の見える関係を築いており、行政主催の研修へ参加し職員へ伝達研修をしたり、地域密着型連絡会に参加する等、協力関係の構築を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で見直す機会を作り、事業所内の月一回会議内での話し合いの実施やマニュアルより全職員には徹底している。出入り口にチャイムを設置。夜間のみ施設玄関を施錠している。	法人の身体拘束適正化委員会に参加する実行委員や法人研修を通し、職員は「拘束をしない」必要性を認識し実践を重ねている。不適切なケアに対しユニット会議で検証している。日中は玄関を施錠せず見守りをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修の実施。事故報告書の内容を毎月ミーティングで話し合っている。介護時、複数の職員が関るため、身体チェック、観察を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、今後も活躍できるように支援していきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時は利用者、ご家族様へ不安や疑問点を尋ね、ご理解いただけるように説明をし、署名捺印を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの相談、苦情内容を含め、職員が真摯に受け止め反省、改善に反映し外部へ表す機会を設け、更なるステップアップに繋げている。	家族とは面会時・介護計画更新時・電話連絡時・運営推進会議・事業所通信等で職員は意見を把握し、申し送りノート等で情報共有をしている。家族要望で居室の模様替えや遠方の家族からは事業所通信で利用者の写真をもっと増やしてほしい等があり、事業所は迅速な対応に努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内で、事故委員会、栄養委員会、教育委員会、行事委員会、感染委員会、褥瘡委員会、運営委員会等があり、意見や提供を積極的に採用し反映させている。	事業所は毎日の申し送り・毎月のユニット会議・法人内各種委員会・随時の管理者との個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。教育委員会では特定技能生の日本語勉強会の実施、行事委員会では夏祭りのキッチンカー導入等の例がある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員に労働時間、給与水準、やりがい等、各自向上心を持って働けるよう職場環境、条件整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設事業所との施設研修に参加、ケア実践能力の向上に努めている。グループホーム独自の研修も行っていたが、現在は出来ない状況である。	職員は法人内研修に参加したり、外部研修案内から各自の力量に応じた研修に参加、報告書作成・回覧・伝達講習を行い、職員との情報共有をしている。特定技能生も育成により、夜間での緊急時対応も可能となり、内部研修では自国との文化の違いや介護事情等について発表参加している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークや勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービス向上のための取り組みに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご家族などから本人の情報を収集し、困っている事、要望を聞き出している。また本人とコミュニケーションをしっかりと取る事で、安心を確保するための関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と最初の面談、契約の段階で、その人がどのような生き方をして来られたか、性格、生活歴など詳しく伺うようにしている。ご家族の要望・気持ちを伺い、他職員にも内容を共有して、ケアできるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、その時その人に何が一番合うサービスなのか、面談などの段階で見極め、その方に合った対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場に置かず、日頃から本人とコミュニケーションをしっかりと取る事を大切に、暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切に、共に支えていくという関係を連携し、対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染予防のため、窓越し面会、電話などで、ご本人様とお会いする事が出来るよう支援に努めている。	地域との絆を重視し、コロナ禍のため窓越し面会・テレビ電話にて家族との再会が実現している。利用者との電話のやり取りや家族と法事等の外出、阿弥陀寺の紫陽花祭り・防府天満宮の初詣等、季節の外出行事で馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を理解し、共同空間の席並びは考えて配慮をし、利用者同士が楽しく関わり合いを持っていたるように支援している。何かある際は職員が間に入るようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様の身体状態などにより、グループホームの利用が難しくなったとしても、本人様、家族の意向を聞きながら、今後の状況について話し合いをしたり、その方に合った事業所などの提案をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者とのコミュニケーションをしっかりと取るようにし、その人がどうしたいか、どう暮らしていきたいかを読み取るようにし、支援できるように努めている。	利用者毎に担当を決め、利用者とはゆっくり話す中で思いを汲み取り、担当者会議やモニタリングに反映する等、思いの共有に努めている。意思の表出困難な利用者の表情・仕草の裏にある想いを探り、横になりたそう・寒そう等、その日の利用者を見て小さな変化を見逃さない対応に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活、本人様の性格を理解し、本人様を否定しないようにグループホームでの生活をして頂く。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの今までの習慣を理解し、共同生活になじむように支援していく。一日の過ごし方については24時間シートを活用している。また申し送りノートを活用した職員間での情報共有を行い、現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が個人の性格、習慣、身体の状態 医師の治療、などを加味し計画に添いケアをしている。	利用者・家族、関係職種の意見を反映した原案を担当者会議で検討し本案としている。計画作成担当者が3か月を基本にモニタリングを集約し計画を見直している。事務所の仕事の手伝い等、馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来て自信になる事を大切にしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別に問題点があり、日頃の様子観察は必要不可欠である。職員自身がレベルアップしていく必要がある。情報の共有、変化をいち早く見つける能力を持つようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マニュアル通りにいかないのが、個別介護である。利用者の思いに傾聴し、どうしたら解決出来るかを自分だけで考えるのではなく、報告、連絡、相談を上手く取り入れサービス提供している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は何があるのか、どのように提供したら良いのかは個人では分からない事が多い。 地域の情報、支援可能な事など把握し利用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は本人が上手く医師に伝える事ができない為、日頃の状況、変化、など観察し、ご家族の思いも理解し、寄り添い、かかりつけ医に情報提供している。	利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。内科協力医から月1回、協力歯科医は適宜の往診、他科受診は事業所又は家族が協力している。週1回の訪問看護や看護師資格を有する介護支援専門員の配置等、適切な医療を受けられる体制を築いている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者を観察し、毎日の様子、変化等を職場の看護師、訪問看護師へ伝え、相談し適切な医療を受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、施設が情報提供し、早期の退院に向けて支援する。ご家族の不安除去の為、相談を受け病院と連携していく。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の思い、本人様にご家族に伝えていた思いなど踏まえ、事業所、病院、地域の関係者等が可能な範囲内で支援している。	要望があれば看取りを行い、経験もある。利用開始時に重度化・終末期ケア対応指針にて基本的な方針を説明し、了解を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い、協力医と連携してできる範囲で適切な支援を行う考えである。外部研修の受講や事後の振り返りを行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	個人様の状態、身体レベルが違うため、予測される事を常に念頭に考え、介護介助する。 急変、事故発生に、慌てることなく、冷静に判断対応が出来るように日頃から実践を身に付けるよう取り組んでいる。	事故防止の実践力を高めるため「なぜなぜ分析シート」等の作成・回覧・事故委員会等での検証を通して情報共有をし、内容も運営推進会議で公表している。参加者からヒヤリハット報告の促進要請や訪問看護師から職員意見を反映した初期対応等の研修会で実践力の習得に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と年2回合同で、昼夜を想定しての避難訓練、通報訓練、消火訓練を行っている。	系列事業所と合同で年2回防火・防災訓練（地震・高潮等）を夜間想定・利用者参加を含め実施している。事業所はハザードマップでは浸水警戒区域である。BCP（業務継続計画）は策定済みであり、非常食・飲料水・その他介護用品等の備蓄は1階研修室や通所介護事業所で常備している。	定期的な避難訓練は実践的に行っているが、地域との協力体制の構築が不十分である。運営推進会議に地域住民の参加もあるが、課題となっている。BCP（業務継続計画）の活用や運営推進会議での情報交換や地域住民（自治会）との連携も踏まえた協力体制の構築を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今まで社会に貢献した人生があり、プライドや誇りもある。本人様を傷つけないように、気分を損ねないような、言葉かけをしている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。利用者に対する言葉かけも尊厳に配慮した関係作りに努めている。特定技能生が示すホスピタリティ（もてなし）ある対応に気づかされる職場環境にある。職員間で情報交換の際は居室番号で伝える等、尊厳に配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴、余暇活動の際、出来る限り自己決定していただける様に声掛けをしている。言語で表現出来ない方は、表情で読み取るようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動など行う際には、何をしたいか声かけを行いその日の状態、ペースに合わせて支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には、鏡を見て、整容、整髪をして頂いたり、ご自身の着替えの服を選んで頂いたりしている。出来ない方には、声掛けをしたり、整容を行ったりと支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併用の厨房で調理している。調理レクリエーションでは日頃食べられない物や旬のものを利用者の要望を聞き、食材の調理を職員と共に行っている。	食事は委託業者の配食に事業所で作った主食を添え提供している。毎月1日は赤飯、パン朝食も可能である。毎月1回調理レクがあり、利用者は職員とあんみつ等、デザート作りをしている。家族との外食の他、夏祭りにはカレー等のキッチンカーが来訪する等、楽しみとなる工夫もある。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立については、栄養士にて作成され栄養バランスをとっている。24時間シートにて食事量、水分量の記載を行い、食事形態の見直し、変更を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。口腔内に異常がある際は、歯科受診、往診をご家族へ確認し行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートを活用し、排泄パターンやその人その人に合った声かけを職員が把握しており、その都度声掛けを行っている。	排泄記録表でパターンを把握しトイレ誘導を基本としている。褥瘡委員会により、おむつ外し取り組み支援・福祉用具の選定等、毎月の見直しや夜間排泄時の転倒防止の為、居室にポータブルトイレやセンサーマット設置、トイレに可動式手すりの設置等、状態に合わせた自立支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間シートを活用し、確認、把握している。余暇活動で、身体を動かして頂いたり、趣味活動をして頂いたり、1日のリズムを整える支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個浴で入浴される利用者は週3回以上、入浴できるように支援を行っている。時間帯は大体午前中になっているので職員都合になっているところもある。	週3回以上の午前浴を基本とし、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。入浴は家庭浴槽での個人浴だが、利用者の重度化に伴い、シャワー浴や足浴に対応したり、負担を考慮し座ったまま入れるよう入浴介助機器の特別浴槽で対応することもある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間よく安心して眠って頂けるように、日中余暇活動で身体を動かして頂いたり、一日の生活リズムを整えるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬科の情報を綴りにし、すぐに確認が出来る状態にしている。服薬内容変更の際は、申し送りノートに記載をし、職員間での情報共有を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、調理レクリエーションの食材調理等、役割を作り、活動できる場の提供をしている。余暇活動として、散歩をしたりと気分転換を図る支援をしている。	利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。洗濯畳み等の家事、事務仕事の手伝い・新聞折り等の役割、嗜好品、ひよっこ体操等の楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防のため、以前のような外出支援が難しい部分がある。屋外など人混みを避けた場所での外出支援は出来ている。	利用者の希望により敷地内を散歩し玄関先の桜に季節を感じたり、夏祭りには広場のキッチンカーでぜんざい等を楽しみ、家族の協力も得ながら法事等による外出や向島運動公園の花見等、季節の外出行事により、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時のお小遣いや医療費などは、ご家族様より現金を事務所でお預かりし管理している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者、ご家族が必要な時には施設の電話などを使用している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所前には、利用者の混乱がないように社用車以外の車は置かないようにしている。共用の空間などには季節を感じられるように飾りつけを行っている。温度、湿度調整、換気を常に行い、居心地よく過ごせるようにしている。	家族等から差し入れの花や玄関先の桜、また季節行事の飾り付けや利用者とする壁掛け作品等で季節の移ろいを感じられる様配慮し、利用者が眩しくない様テレビの後ろにカーテンを引いて遮光する等、工夫をしている。利用者も洗濯物畳み等を手伝い、生活感のある空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、居室にて過ごされたい利用者は居室にて過ごされている。共同空間は気の合った利用者同士で過ごせるように席の配置を配慮したり、ソファで過ごして頂いたり工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前使用していた使い慣れた家具などはそのまま使用し、利用者それぞれに合わせた居室の配置を工夫し、居心地よく過ごせるようにしている。	居室にはベッド・洗面台・床頭台等を設置し、仏壇等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。夜間の事故防止のため利用開始前に居室をリビングに近い場所に配置替えをする例もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を把握し、「できること」「わかっていること」を活かし、支援、介護を行っている。安全に生活ができるように環境整備を日々行っている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひごろもそう

作成日 令和6年8月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	32	看護職との協働	・毎週木曜、訪問看護師が来苑される時など、相談などしやすい関係作り、報連相をしっかりと取って協働体制を作る。	・疑問な事、分からない事などは相談する。 ・訪問看護師との連携をしっかりと取り、急変時など迅速に対応できる関係作りをする。	12ヶ月
2	14	職員を育てる取り組み	・特定技能生が多い職場なので、特定技能生も働きやすい職場環境にする。 ・日本語の勉強会を継続して行う。	・日本語の勉強会を開いているので、継続して行う。 ・各記録物を特定技能生も記入しやすいものへと見直し、変更する。	12ヶ月
3	12	運営に関する職員意見の反映	・ユニット会議などで上がった職員の意見などを運営会議などで話し合い、現場の声を反映させ、より良い職場になるようにしていく。	・運営会議など施設長、上長と意見交換する場があるので、職員の意見を反映させて、働きやすい職場となるようにする。	12ヶ月
4	2	事業所と地域の付き合い	・地域との付き合いが少ないので、地域の方との付き合いを徐々にでも良いので増やしていく。	・コロナ渦という事もあり、難しい部分はあるが、夏祭りでの地域の方への呼びかけ、ボランティア団体への声掛けを行ったりして地域との繋がりを徐々に増やしていく。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。